

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 1番

通告者 大津町立大津中学校

糸永 心紬 議員 渡辺 実咲 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
大津町中央公園について	現在、多くの方が大津町中央公園を利用しています。また、利用している年齢層も幅広く、地域の人に愛される場所であると思います。しかし、これまで友達との会話の中で、「中央公園はボールが使えない」や「自転車を置く場所がない」という話を聞くことがありました。たくさんの人が使う公園なのにボールが使えない、自転車を置く場所がないことは大変なことだと感じました。そこで、今回全校生徒にアンケートをとったところ、その利用方法で困っていることや課題が見えてきました。たくさんの人が使う場所なので、その課題を解決したいと思い、私達はその課題の解決に向けた提案を2点行いたいと思います。 1点目は自転車の利用についてです。現在設置してあるルール看板には「バイクや自転車の乗り入れ、通り抜けはやめましょう」と書いてありますが、実際には自転車を持ち込んでいる人が多いという話を聞きました。自転車を持ち込んでいる人は、その多くが、公園の南側中央(ダイレックス側)から入ってすぐのベンチ横の芝生に持ち込んでいます。自転車を持ち込んでいる人が多い理由として、1つは駐輪場が分かりづらい位置にあること、もう1つは駐輪場から芝生の広場までが遠いことが考えられます。 そこで、駐輪場を分かりやすい公園の南側に増設することを提案します。メリットとして、駐輪場を分かりやすい位置に増設することで、自転車を持ち込む人が減ると考えられます。一方で、南側入口からは車も駐車するために入ってきますし、駐輪場の増設によってその場所によっては、駐輪場に向かう自転車も入ってきます。その際、自転車と車の事故が起きる可能性が高くなるというデメリットも考えているところです。 2点目はルールが明確になっていないことです。現在、中央公園のルール看板には「危険な遊びはやめましょう」と書いてあります。ボールで遊んでいたところ、地域の方から「ボールを使ってはいけない」と注意を受けたという声も上が	町長

	っています。ルール上は、ボールを使っていいのか明確になっていません。また、ルールの看板は令和5年度の大津高等学校からの提案で変わったという話を聞き、インターネットでも中央公園の看板を調べました。すると、変更箇所が「危険な遊びはやめましょう」のイラスト部分であること、以前はボール遊びのイラストであったことがわかりました。その意図としては、公園を利用する人たちに何が危険な遊びなのかをそれぞれ考えて行動してほしいということだと思います。そのうえで、地域の方の認識が「危険な遊び＝ボール遊び」になっているのではないかと私達は考えました。ですが、中学生が考える危険な遊びは花火、スケートボード、エアガン、滑り台の逆走などを危ない遊びだと考える人が多くいます。その認識の違いから看板が変わってもなお、注意されることが起こっています。 そこで、みんなが安心・安全で公園を使えるように、どんなことに気をつければ良いか考えてもらうことが必要だと考えます。そのために、大津中学校でポスター等を作成して発信していくのは可能でしょうか。より多くの人に見てもらうため、大津町の広報にチラシを挟むのもいいのではないのでしょうか。また、大津町には公式ラインやインスタグラムもあるため、それらのSNSを利用して発信していく方法があると思います。大津町中央公園にはゾロ像もあり、外国人の方も多く集まる場だと思うので、利用案内を外国人向けにも作成すると大津町の魅力化にもつながると考えます。 スポーツの森では新たな遊具が設置され、魅力化が進んでいます。中央公園も魅力化を進め、たくさんの方が安心・安全に遊ぶことのできる公園になってほしいです。	
--	--	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 2番

通告者 学校名 熊本県立大津支援学校 山部 翔 議員 濱田 朱李 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
肥後大津駅の利便性の向上	私たち大津支援学校の生徒は、日ごろ、保護者の送迎や通学バスなどで登校したり、電車やバス、自転車などを利用して自力で登校したりしています。今回、質問を考えるにあたって、自力で通学している生徒からでた意見をもとに、2つ提案いたします。 1つ目は、JR肥後大津駅に冷水機を設置してはどうかという提案です。電車を利用して通学する自力通学生からは、冷水機を設置してほしいという声が多く寄せられています。登校中に水筒の中身がなくなってしまうと、駅に冷水機があればすぐに補給ができ、特に電車で長距離を移動する生徒にとって大きな助けになります。また、最近では自動販売機の飲み物の価格が1本130円から180円ほどになっており、途中で喉が渴いても購入をあきらめる生徒も少なくありません。さらに、近年の夏は特に気温が高く、熱中症のリスクも高まっています。冷水機があれば、こまめな水分補給ができ、熱中症の予防にもつながります。そのため、冷水機は北口と南口の両方に1台ずつ、合計2台の設置が必要だと考えています。(紙コップ付きのウォーターサーバー型が一般的ですが、水筒を持参して使えば、紙コップのポイ捨ても防げます。) これらを踏まえて、多くの通学生や駅を利用する方々の安全と快適さのために、冷水器の設置をご検討いただきたいと思います。 2つ目は、ディスプレイ型翻訳機の設置です。実際に、本校の生徒が肥後大津駅で外国の方に話し掛けられ、うまく答えられず困った経験がありました。私も、外国人に声をかけられると、緊張して焦ってしまうので、困っている外国人を助けることができないかも知れません。ディスプレイ型翻訳機は、話した言葉をそのまま画面に翻訳して伝える装置です。駅にあれば、そこにいる人が使用できます。この装置には二つの大きな強みがあります。一つ目の強みは、相手の顔を見ながら対面で会話できること。二つ目の強みは、聴覚に障がいのある方にも文字で内容を伝えることができる点です。聞こえにくさに配慮できることで、より多くの方にとってやさしい駅になると思います。す	町長

	でに東京スカイツリーや西武新宿駅などで実証実験が行われ、メディアにも取り上げられ、高い評価を得ています。ぜひ設置をご検討いただきたいです。 以上の提案について、町長のお考えをお聞きます。	
--	--	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 3番

通告者 学校名 熊本県立翔陽高等学校 中津 鳳雅 議員 岸田 依大 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
空き家対策の新たな活用方法について	最近、空き家の増加が社会問題となっており、実際に熊本県でも空き家の火災が起こったりしています。空き家が増える原因を調べてみると、高齢社会が進む中で、団塊の世代の相続によるものや、所有者の方が空き家の管理に問題を抱えていることなどが挙げられるそうです。これら空き家は適切に管理されず放置されてしまうため、損傷しやすく、台風で屋根が飛んだり、地震で崩壊の危険性があったり、そのような損傷から地域の治安悪化にもつながることが考えられ、大津町民が安心安全に過ごせなくなることも考えられるように思います。 大津町では「大津町空家等対策計画」も策定されており、実際に対策が講じられていることを知り、熊本県の空家率より大津町の空家率が低い水準であることも分かっています。しかしながら、より安心安全な町づくりのためにも新たなアイデアが必要であると考えました。 熊本県内には、空き家や古民家などを民泊やログハウス、ゲストハウスなどの宿泊所に改良し、観光客受け入れの門戸を広げた自治体もあります。ちなみに、本校の女子バレーボール部が今年の連休での人吉遠征で、球磨川沿いのゲストハウスを利用しており、通常のホテル等より快適に過ごせたと、話していました。このような他自治体のモデルを参考にしながら、次の3点を提案します。 1 つ目は、空き家の新たな活用方法の一つとして、中高生などの若者やファミリーをターゲットとして、観光客やスポーツ合宿などにも十分に対応できる体制を作ってみてはどうか、ということです。例えば、大津町には、世界かんがい施設遺産に登録された「白川流域かんがい用水群」の一部である上井手用水がありますので、自然体験活動のひとつとしてラフティングの体験を行ったり(OHZU ADVENTURE)、銅銭糖づくり体験などをセットにしたりすることができるのではと思いますし、そのことは大津町の魅力度アップにつながると考えますが、どうでしょうか。	町長

	2 つ目は、海外からの移住者も含めた方々への住居提供です。改装可能・原状回復不要な空き家を住居提供できるようになると、将来的な大津町の発展にも関係すると思います。 3 つ目の提案として、空き家の町民交流の場としての活用です。人口が増加している大津町にとって町民の交流の場がより必要だと考えます。そこで空き家を集会所として活用してはいかがでしょうか。私たちは、「唐芋の里」と名付けたいと考えています。この集会所では高齢の方がおしゃべりをしたり、子育て広場や婚活パーティ等多くの世代が様々な形としたりして活用できれば、町民の憩いの場になるのではないかと考えます。 このように人口が増えている大津町の全世代の方々が過ごしやすい町になれば、それ自体が大津町の魅力になると考えます。 以上のことを踏まえて、今後の空き家対策についてどのように町長がお考えか、お尋ねします。	
--	--	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 4番

通告者 学校名 大津町立大津北中学校 一瀬 琥珀 議員 赤星 瑠來 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
大津町の賑わいづくりについて(提案)	大津北中学校では全学年授業の中で、大津町に足りないものや必要なものを考えてもらう時間を取りました。そこで特にたくさん出た意見である2点を町長に提案します。 まず、1点目は、地域住民が「集う」「繋がる」施設や空間を作することを提案します。 現在私達が住む大津町には大型の商業施設が少なく、駅の近くにあるのは、イオン大津のみです。そのため、買い物に行ったり、映画館へ行ったり、休日に家族で遊びに行ったりすると、大津町を出て隣町にある「ゆめタウン光の森」や「イオンモール熊本」へ行く必要があります。 また、カフェテリアのような、インターネット環境が充実し、休日でも気軽に学習したり、仕事をしたりする場所もありありません。町役場の横にあるオークスプラザや大津町図書館にも学習するスペースがありますが、使える時間が限られていて、いざ使いたいというときに使えないことが多いです。 このような状況では、不便であるための人口流出や、移住者が大津町を選ばないという問題があるかもしれません。 金田英樹町長は、公約に「アウトレットモール施設等の誘致の推進をすること」を掲げておられます。確かに、アウトレットモールをつくることで、遊びに行くために大津町を出る必要がなくなり地域の魅力も向上し、移住者が大津町を選びやすくなり、さらなる人口の増加が見込めるのではないかと考えます。ただし、私たちは、そこで、地域住民が「集う」「繋がる」施設や空間を作ってほしいと思っています。例えば、肥後大津駅周辺にも映画館のような娯楽施設があるショッピングモールや公共性のある施設ができないでしょうか。私たちが考えているのは、単なる商業施設というだけではありません。そこに、公共性を持たせたいと思っています。	町長

大津町にシェアサイクルサービスチャリチャリを設置してはどうか（提案）	公共性のある施設がどのような施設かという点、私たちは、子供から高齢者までが使える屋内外の公園や、イベントや交流の拠点となる多目的スペース、学習スペースなどを想定しています。幅広い世代、多くのニーズに応えるような魅力ある施設をつくれば大津町の賑わいが活性化し町民にとっても住みよい街になるのではないかと考えました。 2点目は、シェアサイクルサービス「チャリチャリ」の導入についてです。 現在、大津町では公共交通の利便性や地域活性化に向けた課題があると考えています。特に、駅周辺や市街地と住宅地・観光地との間の交通手段の不足が問題と考えます。町長の6つの個別方針に示されている「活気とにぎわいを生む仕組みづくり」に記載されているように、肥後大津駅を起点として様々な地域への動きや賑わいが広がるエリアづくりを進めていくためにも、手軽かつ環境に優しい移動手段であるシェアサイクルサービス「チャリチャリ」の導入を提案します。 まず、チャリチャリとは、スマートフォンアプリで簡単に利用できるシェアサイクルサービスで、現在福岡・東京・名古屋・熊本市などで展開されています。1 分単位で課金される料金体系や、コンパクトな駐輪ステーション(ポート)の設置による柔軟な運用が特徴だそうです。 チャリチャリを導入するメリットとして、移動の利便性向上、観光の振興、地域経済の活性化、環境保護や健康面への貢献等が挙げられます。 導入に向けてデメリットとして考えられることは 2 つあると考えています。1 つ目はチャリチャリの利用台数に限りがあることや返却時にポートが空いておらず、返却できないこともあると考えられます。その場合の解決案としては、利用者が増加してきたときに、チャリチャリの設置台数、ポートを増やすこと、レンタル可能な自転車や空きのあるポートを検索し、予約するサービスを利用することも考えられます。 デメリットの 2 つ目はスマートフォンアプリでの会員登録が必要で、スマートフォンやタブレットを持っていない人やその扱いに慣れてない人は利用できないことです。改善案としては、一部サービスでは代表者一名が登録することで複数台をレンタルすることができるので、そのようなサービスを利用すると良いと思	町長
---	---	-----------

	います。 私たちは、チャリチャリを設置する具体的なポートの場所を、肥後大津駅やイオン、大津町役場、中央公園、大津町総合体育館、道の駅など、人の流れが多い場所と考えています。 以上のことを踏まえて、町長に以下のことをお尋ねします。交通の利便性の向上や地域活性化のために「チャリチャリ」を設置する予定はありますか。以上提案とお尋ねをします。	
--	---	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 5 番

通告者 学校名 熊本県立大津高等学校 安部 謙吾 議員 阿津坂 勇氣 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
大津町の交通状況改善のための展望の確認	大津高等学校からは以下の2点について質問します。 1つ目は「大津町の交通状況改善のための展望」について 2つ目は「大津まちなかバスの今後の活用方法」についてです。 まず、1つ目の「大津町の交通状況改善のための展望」についてです。 大津町では積極的に企業誘致が進められ、その結果として経済の活性化や雇用創出が進み、それは大変良いことだと思います。一方で、企業立地や人口増加に伴う通勤通学の時間帯の交通量の増加や渋滞の慢性化といった環境への影響も将来避けて通れない課題と思います。国道57号などのメイン道路の交通渋滞に伴う生活道路への車の流入により通勤・通学時の安全性が損なわれるおそれがあります。実際に、私が普段利用している生活道路では、カーブミラーがないところや停止線で車が止まってくれないことがありました。また、渋滞による先を急ぐ気持ちやイライラが事故の原因になったり、運転スピードが遅いため、スマホを見るなど気が散ったりすることも予想されます。今後さらに交通量が増えるのが予想されるため、危険性が増えるかもしれません。 こうした課題を解決するためには、交通ルール遵守の呼びかけや道路インフラ整備など多角的なアプローチが必要だと考えました。そこで、大津町として、今後も進む企業誘致や人口増加に伴う交通渋滞が引き起こす交通安全への課題に対して、どのような認識を持ち、将来的にどのような対策を考えているか、現時点での展望を教えてください。	町長
交通渋滞解消及び町民の移動範囲拡大への提言	次は2つ目の「大津まちなかバスの今後の活用方法」についてです。 私は現在行われている大津まちなかバスの実証運行について、町民生活の利便性向上のためにそのような政策を実行して下さりありがたいと思っています。	

	そこで、2点質問します。 1つ目は、まちなかバスの本数を将来的に増加させる予定はあるかということです。私がなぜこの質問をしようと思ったかという、私自身高校生として生活するうえで徒歩、もしくは自転車での移動に限界を感じているからです。大津町でのバスの移動を試みた際、本数の関係でバスをうまく使うことができませんでした。バスの本数を確保するためには、バスの車体数や運転手の数を増やす必要があります。また早朝や夕方、夜にかけて働かなくてはいけない人も出てきてしまいます。その難しさはわかりますが、バスの本数を増やすことによって、町民の移動範囲がより広くなり、街全体として活気が出てくると思います。また交通手段を自家用車からバスに変えることで、交通渋滞の緩和にもつながります。 以上より、バスの本数を増やすことを検討していただきたいと思います。 2つ目は大津まちなかバスの運行エリアに付いての質問です。大津町の中を走るバスとして今後考えられる大津まちなかバスですが、隣町などつなげて運行する考えはありますか。 私がなぜこの質問をしたかったかという、町民が行こうとした場所、施設などにJR 鉄道が通っていなかったり最寄り駅から距離があったりすると移動が厳しいと感じたからです。 私自身、菊陽町の商業施設や温泉などに移動しようとした際、最寄り駅から距離があり移動が困難で、断念した経験があります。 菊陽町では菊陽町内で運行しているバスもあると聞きました。ですから、大津町と菊陽町の間に中継拠点を設け、それぞれのまちなかバスの路線にそこを含むことで2つのまちをバスで繋げるということはどうでしょうか。 この方法のデメリットとしては、中継拠点を作る費用がかかることです。 しかし、大津町には、空港や鉄道の駅など交通の拠点となる場所が多くあります。菊陽町内とバス路線をつなげることで、大津町から菊陽町、菊陽町から大津町と人の流れができ、熊本を訪れた人の移動範囲も広がるというメリットもあると考えています。 また中継拠点を利用することで両町それぞれのバスの本数を減らすことなく運行することができ、両町を巡る場合の運賃や利益配分の課題も解決することができると考えています。ぜひ検討をお願いします。	
--	---	--

